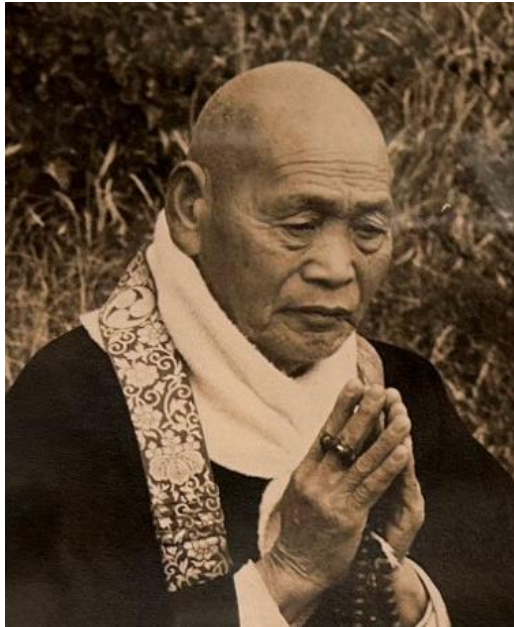


高鍋町の先賢と文化財



岩岡 保吉

高鍋大師開山者
1889年生~1977年没

明治22年（1889）父与平、母キヌの三男として香川県大川郡に生まれました。保吉が7歳（明治29年・1896）の時、一家8人で高鍋に移住しましたが、移住後に最愛の母親を亡くします。

小学校を卒業すると、13歳（明治35年・1902）で町内の文房具店に勤めます。仕事は、リヤカーに文房具類を満載して近隣村々の学校を巡回する、今でいう出張販売を5年間継続しました。

18歳（明治40年・1907）の時は、高鍋町小丸の秋月病院に、医師の往診のため車夫（しゃふ）人力車を引く人）として働きます。昼夜、遠近を問わず医師の診療に従ったことは多くの人に注目されました。その後19歳（明治41年・1908）で精米店を開業、精米と米販売を手がけます。誠実、正直、勤勉な人柄は顧客の信頼を一手に集め、商売は大いに繁盛しました。

岩岡保吉 | Yasukichi Iwaoka



七十四番 カフヤマテラ
（香川県甲山寺）

高鍋大師花守山の遊歩道
（2023年撮影）

四国への巡礼と八十八ヶ所建立の決心

商売が順調な中、30歳（大正7年・1918）の時、四国八十八ヶ所の巡礼に出かけます。高鍋に戻ると保吉は、水谷四国八十八ヶ所に参りますが、その荒廃した様子を目の当たりにして嘆きました。

また、大正から昭和初期にかけて持田古墳群の大規模な盗掘が続発します。信仰深い保吉はことのほか心を痛め、ここに眠る人を供養したいという想いが募ります。高鍋に新しい八十八ヶ所建立を決心したのは、保吉が40歳（昭和3年・1928）の時でした。

八十八ヶ所と大師堂の建立

保吉は早速、仏像彫刻に適した石材を発見し、宮崎郡清武町（現宮崎市清武町）の石切場まで一人で出向き石を購入します。石の代金は前金で支払い、その石材の量はトラック8台分にもなりました。「高鍋大師八十八ヶ所運搬石」と書かれたのぼり旗で飾られたトラックが運搬の列をなし、その様子は圧巻だったそうです。

保吉が八十八ヶ所建立を決心したころは、弘法大師（748~835年）生誕一二〇〇年を迎える前。これを好機ととらえ、高鍋町持田東光寺に土地を買い求め、雑木を払い八十八ヶ所建立の準備に当りました。43歳（昭和7年・1932）の時です。また、大分県佐伯町（現佐伯市）から石工仏師を招き小丸川作業場を設けて、保吉自らも彫刻技術を学び石像造りに励みました。



大師堂
(2023年撮影)

43歳（昭和8年・1933）の時、88体の石像が完成し、東光寺山東面を開山し安置しました。これが「東光寺八十八ヶ所」（現在の花守山、高鍋大師八十八ヶ所）です。その後、四方屋根瓦ふき、丸木材を使用しほぼ自力で120㎡の大師堂を建築しました。内部に小丸の大師祠を移設し、弘法大師石像一体、仏具一式を安置して、昭和9年（1934）入仏式（にゆうぶつしき）ご本尊をお迎えする時にお勤めする法要）を行いました。その後も大小各種の石像を制作し続けました。

地下参拝堂の設営と得度

52歳（昭和16年・1941）の時、太平洋戦争による退避壕設営にあわせ「行場」と呼ばれる地下参拝堂として、横穴掘削を一人で行いました（現在は崩落箇所があるため入り口封鎖）。13か月かけて掘った33間（約65m）に、33体の自作石像を安置完了したのは5年後の57歳といえます。59歳（昭和23年・1948）の時、家業である米穀店を娘婿に譲ります。この間、高野山真言宗の律師（りっし）仏教の僧官の職位）の免状を取り、僧名を「岩岡弘覚」としました。

持田古墳85基の祖先供養、戦没者慰霊と、町民の安全祈願を行い、石像を刻むことの傍ら町に出て、「健康・安全・長寿」を願って町を行脚されていたそうです。

岩岡保吉 | Yasukichi Iwaoka

70歳以降に制作した数々の巨大石像

61歳（昭和25年・1950）の時最愛の妻を亡くし、その後、弘覚和尚（こうかくおしょう）として大師堂に移り住みます。大師堂は、信仰者の親睦慰安の場として囲碁用品や茶室の設置もされ、参拝者は跡を絶たなかったといえます（茶室は平成22年・2010に解体）。以降、弘法大師像をはじめ、4体の仏像と5体の神像、合計9体の巨大な石像を制作したのは70歳以降です。この巨像は遠くからも目を引く7mを超える大型なもので、驚くべきことに「かぜのかみ」と「かみなり」は84歳で完成させました。



弘法大師像
(2023年撮影)

高野山真言宗で得度し、僧官ではありませんが、巨石像の仏像・神像に象徴されるように神仏習合です。石像の笑っているような表情からもわかるように、型にはまらない自由な考えや保吉の優しい人柄が表れています。

晩年の保吉と現在の高鍋大師

77歳（昭和41年・1966）の時に高鍋町長から感謝状授与。また、様々な功績が認められ、昭和51年（1976）宮崎県観光協会から贈られた表彰状には「持田古墳の保護を説き続け、文化財保護に陰の力を添えた」とありました。翌年、87歳（昭和52年・1977）の大往生となりました。

高鍋大師は現在、認定NPO法人高鍋町観光協会により管理されています。昭和8年（1933）に建立、その後改築された大師堂は老朽化により、令和2年（2020）に改築工事が行われ、同年6月に完成しました。また、平成21年（2009）高鍋大師は持田古墳群と共に宮崎県の観光遺産に指定され、令和3年（2021）7月には日本遺産に追加認定されています。整備事業に着手し、平成28年に完成した「高鍋大師花守山」には、季節の花や石像群、日向灘を一望できる憩いの場として町内外から多くの人々が訪れています。